

学習内容報告書 フォーマット

学校名	霧島市立国分小学校
授業者	中馬 勇作

1. 単元計画

実施した活動内容に基づきご記入ください。

1-1. 単元名

海とわたしたち

1-2. 学年

5

1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

総合的な学習の時間

1-4. 単元の概要

霧島錦江湾国立公園に含まれる本市は、海や山に囲まれた自然豊かな場所である。しかし、本校の位置する国分市街は、住宅地や商業施設が多く、海に行くのには車が必要である。そんな場所で育つ本校の子どもらは、海での経験や知識が決して多いとは言えない。そこで、本単元では、「海とわたしたち」をテーマに、海をあらゆる視点から見つめ、「わたし」との繋がりを探らせていくこととした。


1-5. 単元設定の理由・ねらい

本校の子どもたちは、「海」に対する具体的なイメージが弱い。また、海を含む環境問題についても、表面的な理解、言葉による理解に留まってしまっているのが現状である。そこで、昨年度の先輩たちがまとめたパンフレットを足掛かりに、身近なところ、自分たちの足元から調べはじめ、わたしたちの暮らしと海との関わりをさらに詳しく探らせていきたい。

1-6. 育みたい資質や能力、態度

「環境問題」への知識だけによる理解ではなく、実体を伴った具体的な「海の問題」、そこに関わる「わたしたちの暮らし」を、自分たちの目や耳、手足を通して実感させつつ、明日からできる行動に繋げていけるような実践力を育てていきたい。

1-7. 単元の展開（全 50 時間）

時 数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
10	<ul style="list-style-type: none"> ・ 昨年度の先輩たちが作成したパンフレットを読み、納得できない部分やあいまいで分からない部分、もっと深くつっこんでみたい部分を出し合う。 ・ 干潟体験に行き、干潟の心地よさやそこに生きる生物たち等の役割を知る。 ・ 学級ごとにテーマを決め、それに沿った小テーマを決め、テーマごとにグループを作る。 	<p>・ 分からない用語などに留まらないよう、内容に目を向けさせていく。</p> <p>【重富海岸自然ふれあい館なぎさミュージアム】</p> <p>○ 見つけたり感じたりした疑問や気づきを、追究する課題として設定することができる。</p>
15	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小テーマごとに、「分からないこと」を出し合い、予想を立てる。 ・ 予想を確かめるために、調査を行う。 ・ 関係機関に電話や FAX で取材をし、情報を集める。 ・ 近隣の釣具店や鮮魚店に赴き話を聞く。 ・ 海の清掃活動を行う。 ・ 市の生活学校の方々に来ていただき、活動内容や廃油石鹸づくりなどを習う。  <ul style="list-style-type: none"> ・ SDG 's カードゲームを通して、環境の持続可能性について考える。 	<p>・ すぐに調べ出すのではなく、それぞれに具体的な予想を立てさせ、それらを検証していくための方法を考えさせる。</p> <p>【市水道局】</p> <p>【各地の下水処理場】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 油を下水処理出来るのかどうかは、複数の施設に問い合わせてみるよう助言する。 <p>【霧島市生活学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生活学校の方々には、その取組だけでなく、思いも語っていただく。 <p>【下井海岸】</p> <p>○ 課題に対する具体的な予想を立て、調べていく中で、予想とのずれを認識しつつ情報を整理しているか。</p>
4	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小テーマの「調べて分かったこと」「分からないこと」「これからやろうと思うこと」についてまとめていく。 ・ まとめたことを中間発表会でプレゼンテーションする。 ・ 質疑応答、相互助言する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分たちが何をどう問題と受け止め、それにどのように取り組んでいるのかを伝えさせる。相互に学び合うことで、横のつながりにも気付かせる。 <p>○ 他のグループの考えと自分たちの考えとを比較して聞いているか。</p>
10	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中間発表会で出た意見をもとに、さらに調査を行う。 ・ 森林体験学習にて、森林のよさや役割、海と森との繋がりについて知る。 ・ 植樹を行う。 	<p>【始良伊佐地区森林協同組合】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 森林を、「海との繋がり」「人との繋がり」で見えていくよう促す。予想も立てさせる。
9	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習のまとめとして、パンフレット作成を始める。 ・ 伝えたいことを簡潔な文章や図、グラフなどで表現できるよう工夫する。 ・ パンフレットの送付先について話し合い、気持ちの伝わる手紙の書き方を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 読み手に見やすく、自分たちの思いが伝わりやすいようにするにはどのようなデザインや言葉を使えばよいか考えさせる。 <p>○ 読み手を意識したパンフレットの作成ができたか。</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習の振り返りをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ これまでの成果を確認しつつ、その学び方、今後の課題についても意見を出し合う。

2. 学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいても構いません。

2-1. 単元における位置づけ





単元 時間中の 時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

2-2. 本時の目標

近隣の釣具店や鮮魚店を訪れることで、「釣具は海にとってよくないのか」「ごみ問題は、鮮魚店にも何か影響を与えているのか」といった疑問やそれに対する予想の検証をすることができる。

2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
<ul style="list-style-type: none"> 近隣の鮮魚店を訪れ、店主の方に聞き込みをする。  <p>海に優しい釣具はありますか</p> 	<ul style="list-style-type: none"> お店に取材に行く前に、「明らかにしたいこととそれに対する予想」を立てさせておくことで、問題意識を明確にしておく。
<ul style="list-style-type: none"> グループに分かれ、海的环境に配慮した商品がないか、反対に、海にとって有害となりそうなものはないかを探す。  <p>生分解の釣り糸を見つけた。しかし、普及していないようだ。なぜだろう</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 事前に収集してあった情報「鉛は分解されないので海によくない」「分解されやすい商品もあるようだ」をもとに、商品を探すよう促す。
<ul style="list-style-type: none"> 鮮魚店を訪れ、店主の方に聞き込みをする。  <p>実際に、胃袋にごみ袋が入っていたことはありますか</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 鮮魚店だけの情報ではなく、そこに関わるお店や市場などの情報も得るよう助言する。 生け簀で泳ぐ魚の様子も楽しむよう伝える。
<ul style="list-style-type: none"> 新鮮なカンパチをいただき、海の「おいしさ」を味わう。  <p>初めて生身の魚を食べることができた</p> 	<ul style="list-style-type: none"> カンパチの味をしっかりと味わい、家やお寿司屋などで食べるものと、先ほどまで生きていた新鮮な魚との味の違いに注目させる。
<ul style="list-style-type: none"> 学習の振り返りをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「知りたいこと」を明確にし、的確な情報を得ようと聞き方を工夫することができる。

3. 今回の活動の自己評価

今回の訪問先は、子どもたちの問題意識「釣具は海にとってよくないのか」「海を漂うごみは、私たちが口にするような魚にも影響を与えているのだろうか」をもとに、子どもたち自身が決定した。釣具が海に与える悪影響を調べるのに釣具店に行くのは好ましくないだろうが、そこで「生分解」の釣り糸に出会えたのは良かった。しかもその釣り糸は、今は業者から仕入れていないもので、この店の売れ残りの商品だった。ここから、子どもの中に、「なぜ、分解される釣り糸があるのに、みんなそれを買わないのだろうか」「どうして普及していかなかったのだろうか」という新たな疑問が生まれた。鮮魚店では、その場でおろした新鮮なカンパチを食べさせていただいた。「海のおいしさ」を直接味わうことができた点が良かった。

4. 今後の課題

活動ありきにならずに、新たに見つけた課題をどのように追究していくのが重要である。釣具を買う人々をもっとも重視しているのは、環境ではなくその日の「釣果」である。そういった現実を目の前にしたとき、子どもたちがどのような角度から切り込んで問題を解決していくか、そこにどう支援していくかが課題である。

5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

特にありません。

※実施した单元ごとに作成してください。

※写真、画像、図表等の使用可。必要に応じて記入欄やページ数を増やしても構いません。

※基本レイアウト

フォント：MS 明朝、10.5 ポイント / マージン：上下端 20mm、左右端 16mm

※ファイル名は「学習内容報告書_学校名」とし、複数提出する場合は学校名の後に数字を記載してください。

例：学習内容報告書_海洋市立パイオニア小学校 1

※年間指導計画（年間の指導計画における単元の位置づけが分かる資料）があれば別添資料として提出してください。フォーマットの指定はありません。